

あまそだち農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、都市圏に近い地理的な条件を活かし、水稻、施設園芸（野菜・花卉）、露地野菜等の生産が行われ県内でも有数の産地となっている。また、本地域ではレンコン、花ハス等が栽培されており、全国でも有数の産地である。

しかし、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中、高齢化・不作付地の問題を解決するため、各関係機関と連携し地域の中心となる経営体へ農地の集積をはかり、経営規模の拡大・作業の効率化等に取り組み、産地交付金を有効に活用し、戦略作物への取り組み又は地域振興作物の衰退の防止に取り組んでいる。

2 作物ごとの取組方針

（1）主食用米

主食用米の需要が減少する中、今後の需要動向を勘案しつつ、「良質」、「低コスト」、「安全・安心」な米作りを進める。また、米の主産地としてブランド化を進め、様々な販売促進活動を通して、米の消費拡大、販売の促進に努めていく。

（2）非主食用米

ア 加工用米

水田地帯である本地域において、有効な戦略作物として積極的に取り組み、農業者の手取り増大と安定的な生産への取り組みを図り、主食用米の需要動向を勘案しつつ現行の面積を維持していく。

イ 飼料用米

主食用米と同じ機械、施設で取り組める転作作物として、平成 27 年度から新たに取り組みを開始するところである。加工用米と同様に農業者の手取り増大と安定的な生産への取り組みを図り、主食用米の需要動向を勘案しつつ作付面積の拡大を図っていく。

（3）麦、大豆

小麦については、食料自給率・自給力向上の観点からも重要な作物であることから、産地交付金の産地戦略枠を十分に活用し生産性・品質向上への取り組みや団地化等の取組みを通じ、作付面積を拡大していく。

大豆については、小麦へ作付移行し面積が減少するなか、大豆についても重要な作物であることから品質向上・収量増収への取り組みを図る。

また、水田フル活用の観点から小麦－大豆による二毛作への取り組みを推進し、大豆の作付面積拡大を図る。

(4) 地域振興作物

ア 花ハス、レンコン

花ハス、レンコンは本地域の特産物であり、主要な転作作物でもあるので、農業者の所得安定・作付面積の維持拡大に向け取り組んでいく。

イ その他地域振興作物

その他地域振興作物については、特色ある産地づくりを進め、農業者の所得安定・作付面積の維持拡大に向け取り組んでいく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 28 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	1,553	1,325	1,290
加工用米	184	184	184
備蓄米	70	—	—
米粉用米	—	—	—
飼料用米	—	80	100
WCS用稲	—	—	—
麦	48	240	250
大豆	44	70	75
飼料作物	—	—	—
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
地域振興作物	314	314	314
花ハス	14	14	14
レンコン	233	233	233
食用作物	51	51	51
非食用作物	16	16	16

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 28 年度 (目標値)	平成 28 年度の 支援の有無
1	小麦	生産性向上等の取組	イ	実施面積	48 ha	240 ha	有

※「分類」欄については、要綱（別紙 10）の 2（5）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組の記号をいずれか 1 つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり